

目次

第 1 章	運動制御	3
1.1	終点誤差分散最小モデル	3
	参考文献	5

第 1 章

運動制御

1.1 終点誤差分散最小モデル

Harris および Wolpert は制御信号の大きさに従い、ノイズが生じるモデルを提案した。さらにこのモデルにおいて、状態の分散が可能な限り小さくなるような制御信号を求めた。これを終点誤差分散最小モデル (minimum-variance model) と呼ぶ (Harris and Wolpert, 1998)。

終点誤差分散最小モデルは状態 $\mathbf{x}_t \in \mathbb{R}^n$, 制御信号 $\mathbf{u}_t \in \mathbb{R}^p$ とし, $\mathbf{A} \in \mathbb{R}^{n \times n}$, $\mathbf{B} \in \mathbb{R}^{n \times p}$ とすると,

$$\mathbf{x}_{t+1} = \mathbf{A}\mathbf{x}_t + \mathbf{B}\mathbf{u}_t(1 + \xi_t) \quad (1.1)$$

と表せる。ただし, $\xi_t \sim \mathcal{N}(0, k\mathbf{I})$ ($k > 0$) である。このため, $\mathbf{u}_t(1 + \xi_t)$ の平均は \mathbf{u}_t , 分散共分散行列は $k\mathbf{u}_t\mathbf{u}_t^\top$ となる。 \mathbf{x}_t を過去の状態 $\mathbf{x}_{t'}$ ($t' = 0, \dots, t-1$) で表すと,

$$\mathbf{x}_t = \mathbf{A}\mathbf{x}_{t-1} + \mathbf{B}\mathbf{u}_{t-1}(1 + \xi_{t-1}) \quad (1.2)$$

$$= \mathbf{A}^2\mathbf{x}_{t-2} + \mathbf{A}\mathbf{B}\mathbf{u}_{t-2}(1 + \xi_{t-2}) + \mathbf{B}\mathbf{u}_{t-1}(1 + \xi_{t-1}) \quad (1.3)$$

$$= \dots \quad (1.4)$$

$$= \mathbf{A}^t\mathbf{x}_0 + \sum_{t'=0}^{t-1} \mathbf{A}^{t-t'-1}\mathbf{B}\mathbf{u}_{t'}(1 + \xi_{t'}) \quad (1.5)$$

となるので, \mathbf{x}_t の平均と分散共分散行列はそれぞれ,

$$\mathbb{E}[\mathbf{x}_t] = \mathbf{A}^t\mathbf{x}_0 + \sum_{t'=0}^{t-1} \mathbf{A}^{t-t'-1}\mathbf{B}\mathbf{u}_{t'} \quad (1.6)$$

$$\text{Cov}[\mathbf{x}_t] = k \sum_{t'=0}^{t-1} \left(\mathbf{A}^{t-t'-1}\mathbf{B} \right) \mathbf{u}_{t'}\mathbf{u}_{t'}^\top \left(\mathbf{A}^{t-t'-1}\mathbf{B} \right)^\top \quad (1.7)$$

となる。制御信号の時系列 $\{\mathbf{u}_t\}$ が与えられている場合, 状態 \mathbf{x}_t の平均と分散共分散行列は, $\mathbb{E}[\mathbf{x}_0] =$

$\mathbf{x}_0, \text{Cov}[\mathbf{x}_0] = \mathbf{0} \in \mathbb{R}^{n \times n}$ として,

$$\mathbb{E}[\mathbf{x}_t] = \mathbf{A}\mathbb{E}[\mathbf{x}_{t-1}] + \mathbf{B}\mathbf{u}_{t-1} \quad (1.8)$$

$$\text{Cov}[\mathbf{x}_t] = \mathbf{A} \text{Cov}[\mathbf{x}_{t-1}] \mathbf{A}^\top + k\mathbf{B}\mathbf{u}_{t-1}\mathbf{u}_{t-1}^\top \mathbf{B}^\top \quad (1.9)$$

と逐次的に計算が可能である.

このようなモデルにおいて, 次の条件を満たす制御信号を求めることを考える. まず, 初期状態を \mathbf{x}_0 , 目標状態を \mathbf{x}_f とする. また, 運動時間を T_m , 運動後時間 (post-movement time) を T_p とする. よって 1 試行にかかる時間は $T := T_m + T_p$ となる. 以下では時間は離散化されており, T_m, T_p, T は自然数を取るとする. 運動後の停留期間である時刻 $T_m \leq t \leq T$ において, 状態の平均が目標状態と一致する, すなわち

$$\mathbb{E}[\mathbf{x}_t] = \mathbf{x}_f \quad (T_m \leq t \leq T) \quad (1.10)$$

を満たし, 位置の分散

$$\mathcal{F} = \sum_{i \in \text{Pos.}} \left[\sum_{t=T_m}^T \text{Cov}[\mathbf{x}_t] \right]_{i,i} \quad (1.11)$$

を最小にするような制御信号 \mathbf{u}_t を求める. ただし, Pos. は状態 \mathbf{x}_t の中で位置を表す次元の番号 (インデックス) の集合を意味し, $[\cdot]_{i,i}$ は行列の (i, i) 成分を取り出す操作を意味する. この最適化問題を (躍度最小モデルの際にも用いた) 等式制約下の二次計画問題で解くことを考える. 二次計画問題で解くには, 最小化する目的関数と等式制約をそれぞれ

$$\text{目的関数} \quad \frac{1}{2} \mathbf{u}^\top \mathbf{P} \mathbf{u} + \mathbf{q}^\top \mathbf{u} \quad (1.12)$$

$$\text{等式制約} \quad \mathbf{C} \mathbf{u} = \mathbf{d} \quad (1.13)$$

の形にする必要がある. ただし, \mathbf{P}, \mathbf{C} は行列, \mathbf{q}, \mathbf{d} はベクトルである. 簡単のため, $p = 1$ の場合を考慮すると, $\mathbf{u}_t \rightarrow u_t \in \mathbb{R}$ となる. 状態信号の時系列をベクトル化し, $\mathbf{u} = [u_t]_{t=0, \dots, T-1} \in \mathbb{R}^T$ とする. また, 後の結果に影響しないため, $k = 1$ とする. さらに位置のインデックスを $\text{Pos.} = \{1\}$ のみとする. この条件の下, 式変形を行うと, 目的関数 \mathcal{F} は

$$\mathcal{F} = \left[\sum_{t=T_m}^T \text{Cov}[\mathbf{x}_t] \right]_{1,1} = \left[\sum_{t=T_m}^T \sum_{t'=0}^{t-1} u_{t'}^2 \left(\mathbf{A}^{t-t'-1} \mathbf{B} \right) \left(\mathbf{A}^{t-t'-1} \mathbf{B} \right)^\top \right]_{1,1} \quad (1.14)$$

$$= \sum_{t'=0}^{T-1} u_{t'}^2 \sum_{t=\max(t'+1, T_m)}^T \left[\left(\mathbf{A}^{t-t'-1} \mathbf{B} \right) \left(\mathbf{A}^{t-t'-1} \mathbf{B} \right)^\top \right]_{1,1} \quad (1.15)$$

と書ける. 最後の式変形は $u_{t'}^2$ を二重総和の外に出すために行った. この操作は図 1.1 における横方向と縦方向の和の順番を交換することに該当する.

ここで

$$V_{t'} := \sum_{t=\max(t'+1, T_m)}^T \left[\left(\mathbf{A}^{t-t'-1} \mathbf{B} \right) \left(\mathbf{A}^{t-t'-1} \mathbf{B} \right)^\top \right]_{1,1} \quad (1.16)$$

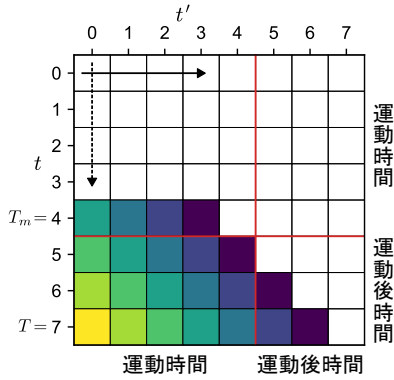


図 1.1 式 1.15 における和の順序交換の概念図 ($T = 7$ とした場合). 色付きのマスは時刻 t, t' ($T_m \leq t \leq T, 0 \leq t' \leq t-1$) における $(\mathbf{A}^{t-t'-1}\mathbf{B})(\mathbf{A}^{t-t'-1}\mathbf{B})^\top$ の値を意味する.

とすると, $\mathbf{P} = \text{diag}(V_0, \dots, V_{T-1}) \in \mathbf{R}^{T \times T}$ および $\mathbf{q} = \mathbf{0} \in \mathbf{R}^T$ と置くことで, $\mathcal{F} = \mathbf{u}^\top \mathbf{P} \mathbf{u} + \mathbf{q}^\top \mathbf{u}$ と書ける. この場合, 第 2 項は 0 であるので, 第 1 項の係数は結果に影響しない.

次に等式制約を求める. $\mathbb{E}[\mathbf{x}_t] = \mathbf{x}_f$ ($T_m \leq t \leq T$) を変形すると,

$$\sum_{t'=0}^{t-1} \mathbf{A}^{t-t'-1} \mathbf{B} u_{t'} = \mathbf{x}_f - \mathbf{A}^t \mathbf{x}_0 \quad (1.17)$$

となる. 左辺について

$$\mathbf{C}_{(t-T_m)n+1:(t-T_m+1)n+1, t'} = \begin{cases} \mathbf{A}^{t-t'-1} \mathbf{B} & (0 \leq t' \leq t-1) \\ \mathbf{0} & (t \leq t' \leq T-1) \end{cases} \in \mathbf{R}^n \quad (1.18)$$

および, 右辺について

$$\mathbf{d}_{(t-T_m)n+1:(t-T_m+1)n+1} = \mathbf{x}_f - \mathbf{A}^t \mathbf{x}_0 \in \mathbf{R}^n \quad (1.19)$$

とすることで, 等式制約が書き下せる. ただし, $[\cdot]_{i:j}$ はベクトルあるいは行列の i 番目から j 番目までを取り出す操作を意味する. このように, $\mathbf{P}, \mathbf{q}, \mathbf{C}, \mathbf{d}$ を設定すると, 等式制約下の二次計画問題を用いて \mathbf{u} を求めることができる.

参考文献

Harris, C. M. and Wolpert, D. M. (1998). “Signal-dependent noise determines motor planning”. *Nature* 394.6695, pp. 780–784.